

会社概要

株式会社黄山美術社 本社/東京都江戸川区南葛西3-24-7▶設立・
2002年10月▶資本金1000万円▶売上高3億円(2007年3月期見込み)

起業家新時代

黄山美術社

美術展を通じて
日中の懸け橋を目指す

陳建中社長(50)



書画や陶磁器、工芸品など、中国の美術品に対する日本の人気は、根強いものがある。この中国の美術展の企画・運営で急成長しているのが黄山美術社(東京都江戸川区)だ。社長の陳建中氏の目標は、「中国美術を通じて、日中の懸け橋になりたい」。現在は美術展の企画・運営や美術品販売にとどまらず、国外に流失してしまった古代美術品の中国への帰還事業にも乗り出している。

「経済学部の張紀濤教授から、40歳を超えて始めても成功する仕事を考えるべき」と、美術展での物販を示唆されたという。

「もともと私は書をたしなんでおりました。将来は好きな美術関係の仕事に飛躍できる可能性がある」と一念発起して、50万円の資金で在学中の1998年に創業しました」

最初に始めたのが中国美術の展覧会での記念品の販売。

45歳となった2002年10月には黄山美術社を設立し、中国文化の美術展の企画・運営にも乗り出した。記念品販売は、昨年1年間で全国30カ所以上で営業。日本で行われる中国文化美術展の物品販売ではすでに7~8割のシェアを占めるに至ったという。

扱う商品は文物レプリカ、中国の伝統工芸品、仏像、ヒスイなど。数年前に開かれた中国歴史王朝展では兵馬俑の実物大レプリカ(80万円)も販売できた。

来場者のなかには記念のお土産というより、雄大な中国の歴史や文化に魅せられて美術品を買う人が少なくないという。「本物の文物は販売できませんが、中国の、現代の匠が作った品質の高いものを輸入しています」。

こうした記念品の販売にあたり、販売員にも歴史や美術工芸の知識を

教育して、顧客満足度を高めるよう接客マニュアルなどを作成して努力している。

「信義、信用を重んじることが重要」と語る陳社長の姿勢は、やがて美術展の世界で信頼を得るようになり、ここ数年は美術催事そのものの企画・運営まで手掛けるようになった。

06年から07年にかけて各地で開かれていた「北京故宮博物院展」で運営に協力するほか、08年には、東京富士美術館(東京都八王子市)主催の「大・三国志展」の企画にも協力することが決まっており、「09年までに5カ所の美術展の企画や運営に協力します」という。

美術品の

祖国帰還事業に注力

こうした記念品販売、美術展の企画と並んで、近年力を注いでいるのが中国美術品の本国への帰還事業。その一つが清朝から続く中国の「文房四宝(墨、硯、筆など)」の最

大手の老舗「榮玉齋」と協力して取り組んでいる書画の中国帰還事業だ。「中国の経済発展にともない、中国の実業家が清朝時代から近現代にいたるまでの書画などの美術品を求めているのです」。

このほか、中国の博物館や美術館もここ数年、古美術品の買い戻しを進めており、こうした中国美術品の

帰還事業が本業と並ぶ現在の大きな柱となっている。

06年9月には、中国人民対外友好協会に設けられている「中国友好和平発展基金会」と協力し、国外に流出した中国文物の調査・回収事業にあたる「海外文物回帰保護基金」を創設、陳社長は日本代表に就任した。日本で買い戻す美術品は72年の日中国交正常化以降に日本に輸入された書画から、明朝、清朝以前の古代の美術品にいたるまで幅広く、なかには1億円を超えるような骨董品もあるという。

こうした美術品の祖国帰還事業の取り組みが認められ、基金創設と同時に中国人民対外友好協会から和平方展貢献賞を受賞した。陳社長は「中国美術品の祖国への帰還事業は中国の国家事業の一環ですから、本業を固めるのももちろんですが、帰還事業を通じて日中の懸け橋になりたい」と話す。

(編集部)

会員募集中



企画協力

毎日起業家クラブ

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
TEL.03(3213)3070 FAX.03(3213)2838